

(1)八潮市における道路陥没事故の概要

(1) - 1 埼玉県の陥没事故の概況

- 令和7年1月28日、埼玉県八潮市の県道において道路陥没が発生し、トラック運転手が車両ごと落下。
- 陥没箇所には、処理水量約61万m³/日の下水処理場に繋がる管径4.75mの流域下水道管路が埋設されており、下水道管の破損に起因すると考えられる陥没としては、最大級の規模。
- 陥没規模は拡大するとともに、関連する12市町の120万人に下水道(風呂、洗濯など)の使用自粛が要請されるなど、影響は更に拡大。現場では、現在も救助活動に向けた作業が継続中。

- 発生日時：令和7年1月28日(火)午前10時頃
- 発生場所：八潮市中央一丁目地内
県道松戸草加線(中央一丁目交差点内)
- 陥没規模：(1月28日当初) 幅約9~10m、深さ約5m
(1月31日拡大後) 幅約40m、深さ最大約15m
- 下水道管：管径4.75m、昭和58年(1983年)整備(経過年数42年)
令和3年度の調査時には、補修が必要な腐食は確認されず
- 接続先：中川水循環センター(処理水量約61万m³/日)

1月28日(火)陥没発生当初



1月31日(金)拡大後、スロープ整備着手前

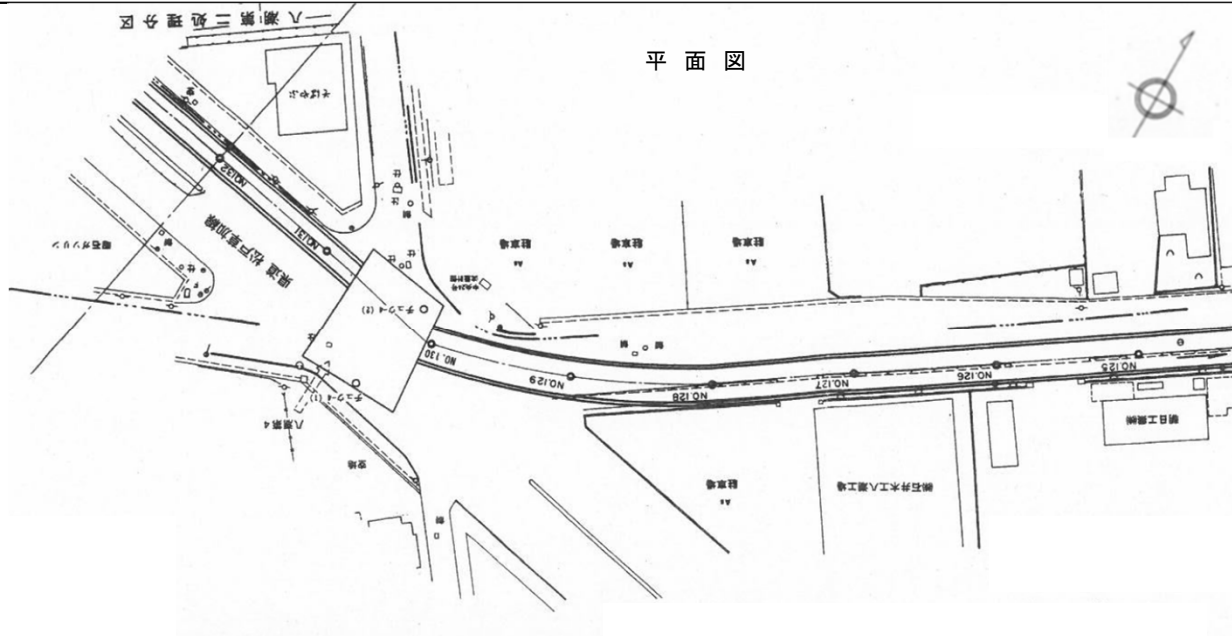


(写真出典) ANN NEWS

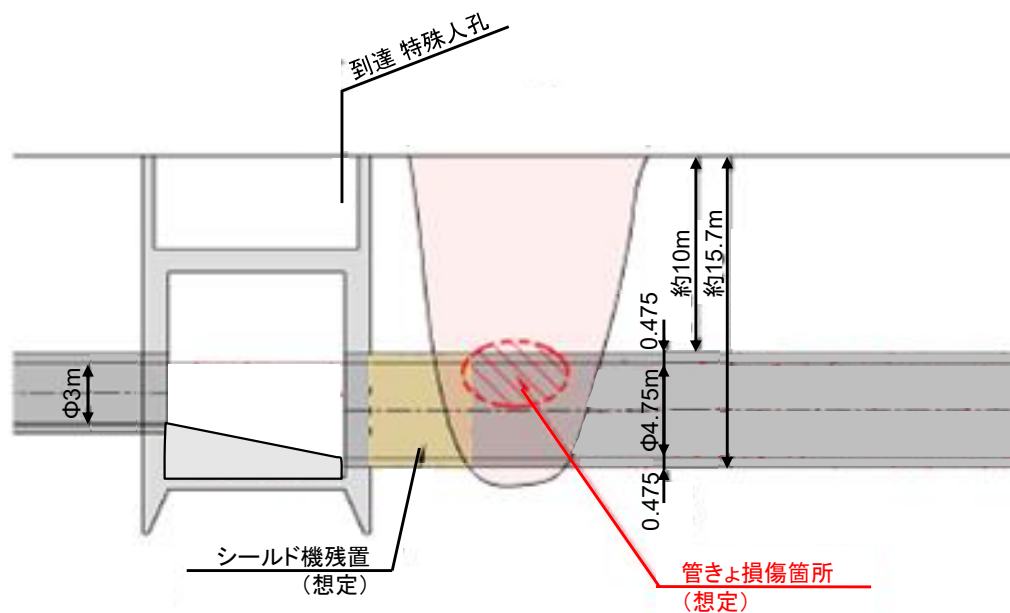
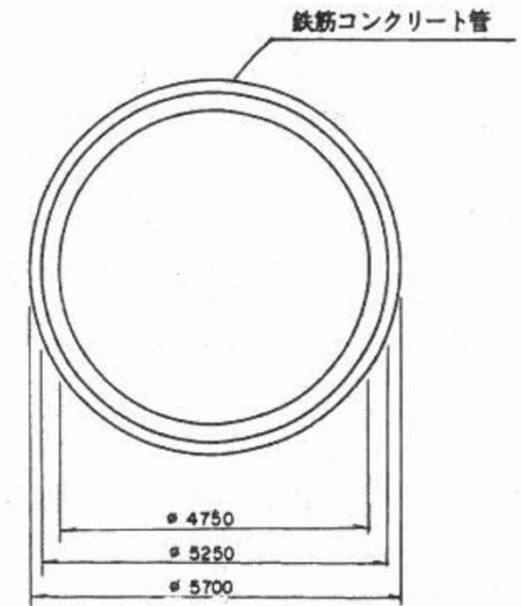


(1)-2 陥没箇所流域下水道管路の特徴①

- ・大口徑(内径4750mm、管厚475mm、外径5700mm)、シールド工法施工の曲線部
- ・流量が多い(平常時4m³/s程度、関連12市町約120万人分の汚水が流下)



管きよ断面図



(1) - 3 陥没箇所 の 流域 下水道 管路 の 特徴 ②

脆弱な地質条件

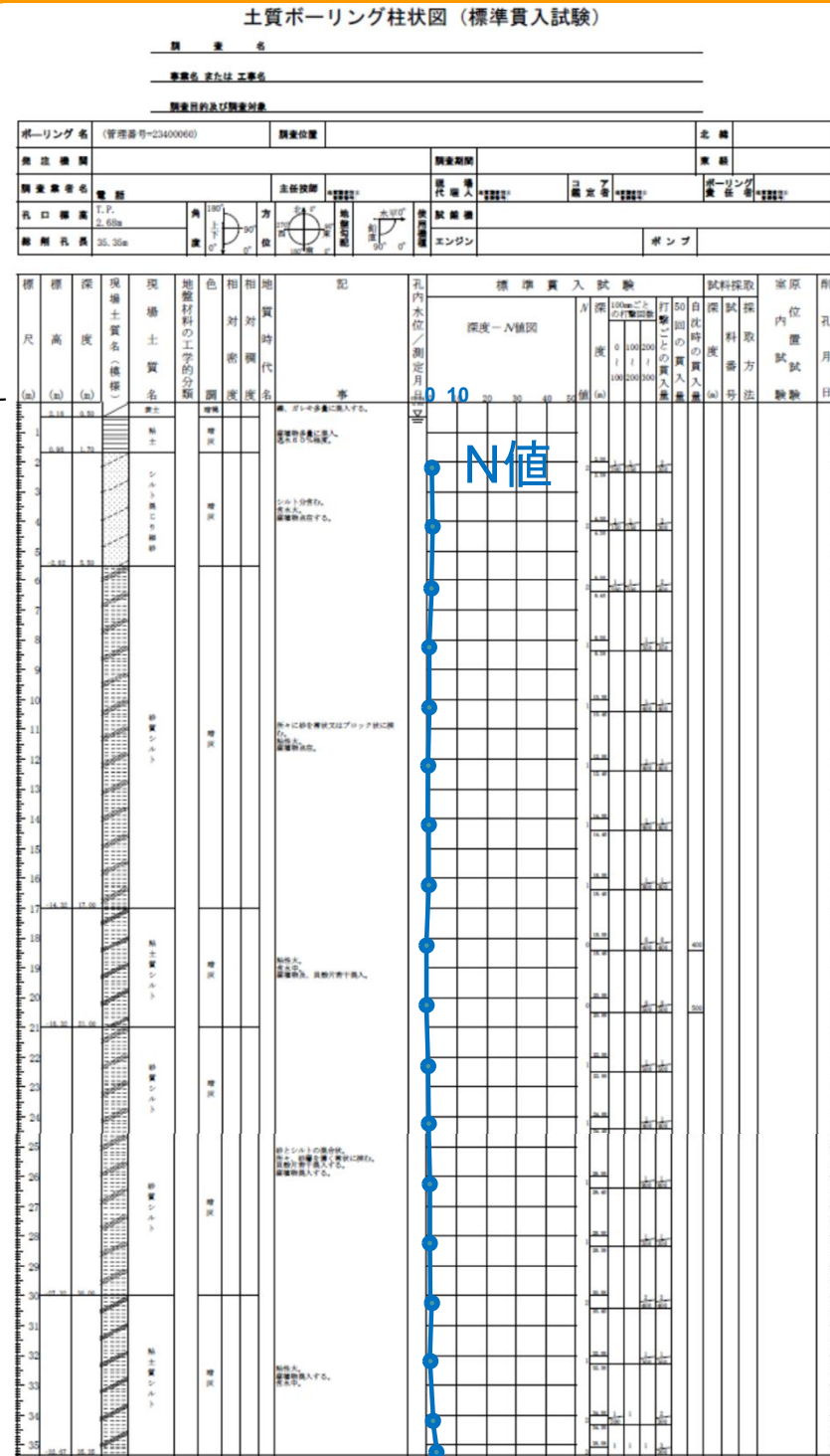


陥没箇所

陥没箇所近傍(約350m北東)の土質ボーリング柱状図の概要

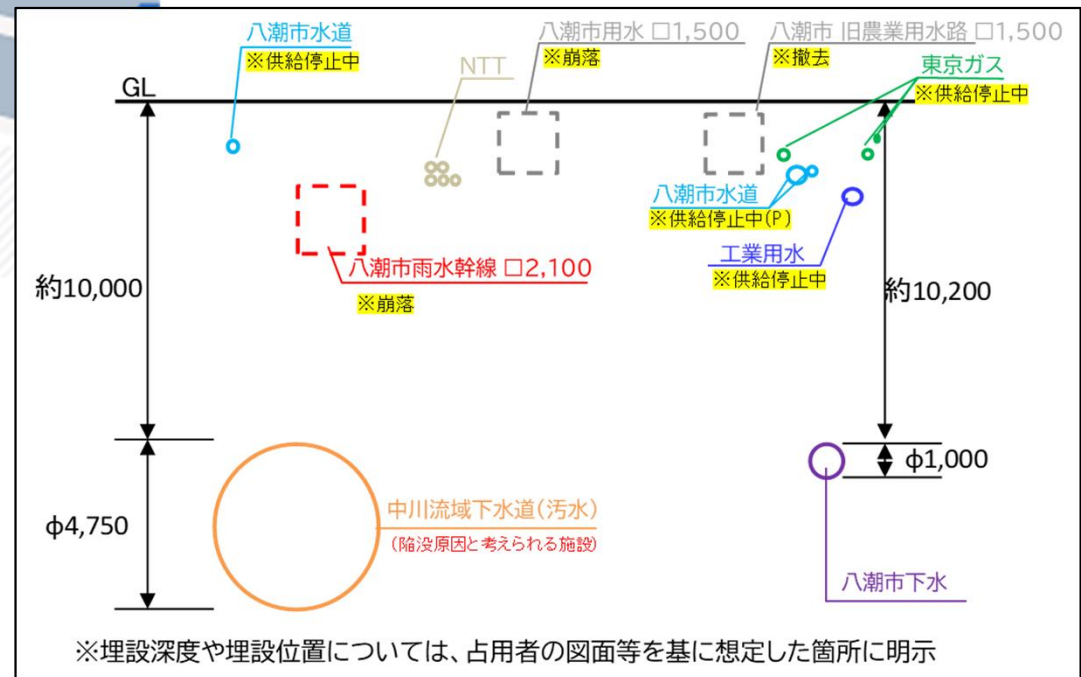
- ・地下水位がGL-0.5m
- ・表層の粘土(深度1.7mまで)を除き、土質はシルト混じり細砂、砂質シルト、粘土質シルト
- ・深度30m程度までN値がほぼ0

出典: 埼玉県ボーリング柱状図



(1) - 4 陥没現場の状況について

2月20日(木)18時00分時点



(1) - 5 陥没箇所への対応状況(下水道のバイパス)について

八潮市道路陥没事故 対応事業 ～第1ステップ(ポンプ迂回)～

第1ステップ：2月12日(水)～

排水ポンプで陥没部を迂回

河川への放水と合わせて、事故発生前の
汚水処理量を維持する

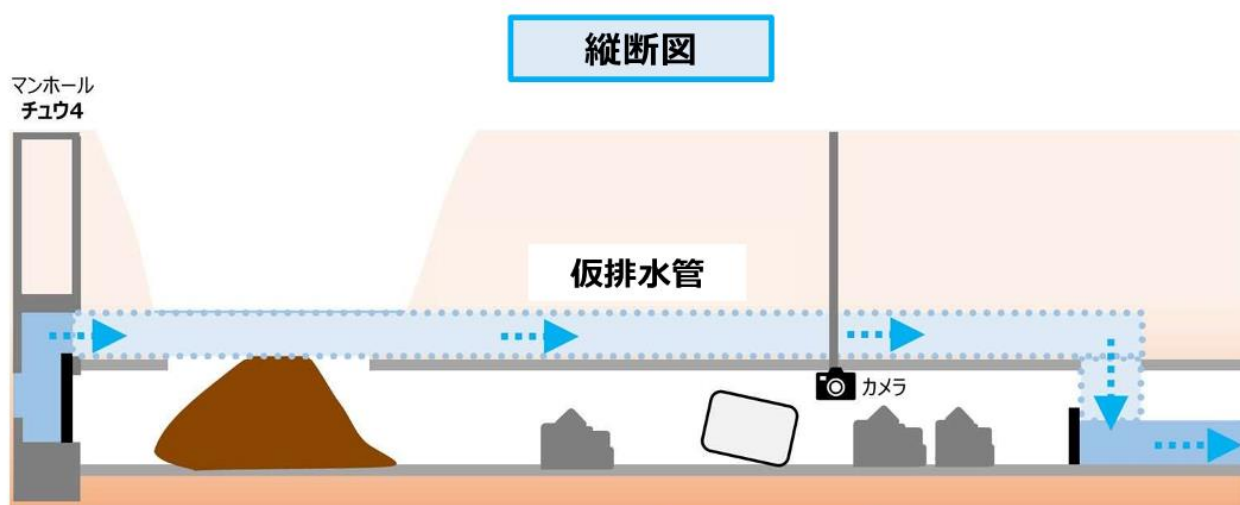
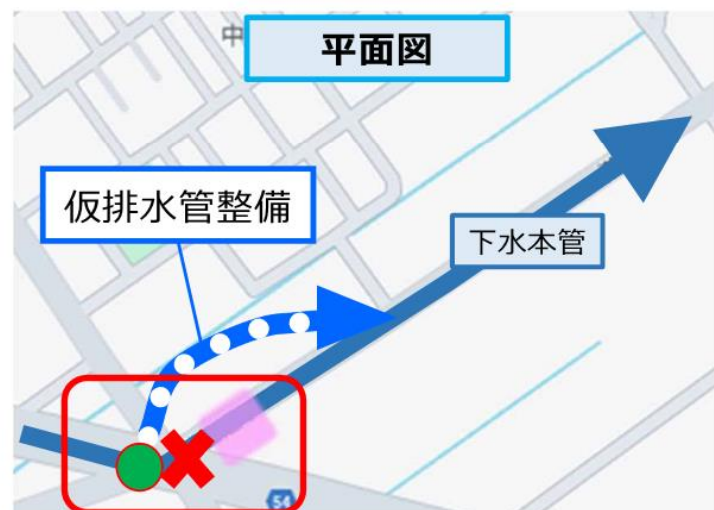


【第2回埼玉県災害対策本部会議(令和7年2月19日(水))より抜粋】

(1)－6 陥没箇所への対応状況(下水道のバイパス)について

八潮市道路陥没事故 対応事業 ～第2ステップ(仮排水管)～

第2ステップ：約3か月



【第2回埼玉県災害対策本部会議(令和7年2月19日(水))より抜粋】

(1) - 7 陥没箇所の水位低下対策

2月20日(木)18時00分時点

○陥没箇所の水位を低下させるために、バキューム車などによる汚水の輸送や排水ポンプ車による汚水の緊急放流などを実施

＜陥没箇所における水位低下のための取組＞

- 排水ポンプ車による切り回し（写真①、②）
 - ・陥没箇所付近上流部の1箇所から周辺のマンホールへ汚水を送水
- バキューム車などによる汚水の輸送（写真③）
 - ・複数箇所のマンホール→中川水循環センター等（約40台/日）
- 排水ポンプ車による汚水の緊急放流（写真④、⑤）
 - ・中川支流の新方川に流入する用水路へ緊急放流を実施中
 - ※汚水の放流の影響を減らすため、塩素消毒や県企業局による希釈水の注水及び元荒川からの取水による注水を実施

緊急放流後の流下ルート



河川水質調査結果（HP公表資料より）

月日	時刻	pH	BOD (mg/L)	SS (mg/L)	DO (mg/L)	大腸菌 (CFU/100mL)
1月29日(放流前)	22時20分	—	5.1	5	—	680
2月1日	11時15分	7.6	85	25	—	7,600,000
2月18日	8時50分	7.5	10~15*	13	8.2	20
2月19日	8時50分	7.4	10~15*	12	9.0	930,000

*簡易水質測定キットの値(最大値100mg/L)